



# ふるさと長門と 県政を力強くつなぐ！

自由民主党政策聴聞会で県内市町や各団体からいただいた数々の要望を反映！

昨年末までにいただいた850件を超える要望を整理・調整し、55項目の超重点要望項目に取りまとめ県に提言。

## ■未来へつなぐ「3つの維新」へのさらなる挑戦

- ①Society5.0時代を見据えた未来技術の活用
- ②地域と関わる新しい人の流れの創出
- ③地域を支える多様な人材の確保・育成
- ④社会全体での子育て支援体制の充実

## ■持続可能な行財政基盤の確立に向けた取り組みの着実な実行

## ■国の経済対策に呼応した緊急的な課題への対応



## 道路

北浦地域での産業維新・大交流維新・生活維新の実現に向けて  
長門各地域の社会インフラの早期整備を！

### 山陰道

山陰道建設促進山口県議会議員連盟会長として、青木一彦国土交通副大臣に「山陰道西部国道事務所」設置と合わせた事業促進（長門：俵山・豊田道路13.9km）と未着手区間（長門：三隅～湯本間、豊田～小月間）の早期事業化を村岡知事とともに要望。



### 県道268号線 (豊田三隅線)

大河内ダムの建設で大型車両の通行が増加。渋木・真木地区の重要な生活道である当路線の狭隘箇所の改良や、視界を阻害する河川の繁茂樹木等の除去を強化。



### 県道38号線 (美祢油谷線)

国道491号線から分岐し俵山七重地区経由同大羽山交差点までの全2車線化がいよいよ大詰め。令和2年度供用開始に向け総仕上げ。



### 県道356号線 (久津小田線)

永年の地域住民の要望であった当路線海岸沿いの狭隘箇所が、地権者のご協力により、令和2年度から拡幅工事がスタート。



## 長門地域に関連する主な県事業（抜粋）～令和元年度・令和2年度～

### 教育

### 教育のICT化で子どもたちの新たな学びを創造



## 中山間地域振興

### 長門地域での元気生活圏づくりを応援

旧中学校区など住民が住み慣れた生活圏内で、過疎化高齢化が進んでも一定の生活サービスの確保を目指す「元気生活圏づくり」。元気生活圏づくりに動く俵山地区で、将来の地域の担い手の地域経営会社づくりを引き続き支援。合わせて俵山、向津具、宇津賀地区の地元商品開発、施設整備等も支援。



### 医療・福祉

### 2次医療圏での質の高いがん医療の効率的提供

長門総合病院のがん診療施設整備、高精度放射線治療機器「リニアック」設備整備を昨年度支援。

【リニアック治療】体の外側から放射線を照射して、正常組織を残しながら等の病気の治療を行うもの



### 環境

### 北長門海岸国立公園施設の老朽化に向けた対策を！



油谷津黄地区的名勝「龍宮の潮吹」。園地のトイレの水洗化、洋式化に続き、令和2年度は老朽化したデッキを補修。元乃隅神社と並行した環境整備を支援。

### 農林水産

## 地域や時代が生み出す一次産業の活性化！

### 森林づくり県民税を活用して

長門地域でも「地域が育む豊かな森林づくり推進事業」により「三隅いこいの森」の整備や野田峠周辺の繁茂竹林整備等を実施。



### 県有数の和牛の产地「長門大津」における増頭対策を！



長門市キャトルステーション協議会と共に島根県大田市のJAしまね県央地区畜産総合センター（キャトルステーション）を視察。生産者の高齢化が進展する地域であっても、和牛がしっかりと増頭できる仕組みづくりに向け、研究を前進！

### 観光

### 長門の温泉・グルメの魅力の更なる発信を！

温泉・グルメをテーマに、長門市とも連携し、地域を限定した集中的なプロモーションによる送客キャンペーンを開催。



### ICTを活用した養殖管理システムやブランド養殖魚育成を！

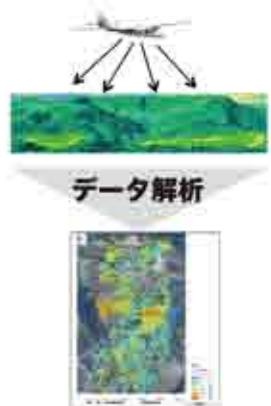


仙崎大泊地区的県水産研究センターで酒粕を活用した養殖技術の研究が進められ、令和元年度は「サバ」養殖で好データを確保。今後ウマヅラハギやフグ、ヒラマサ等にも試験魚種を拡大し、県内における「つくり育てる漁業」を支援。

### 森林環境譲与税を活用して

森林の手入れが行き届かないことが一因となり全国で相次ぐ土砂災害の未然防止や温室効果ガスの吸収源の活性化、林業の活性化を目的とする「森林環境譲与税」が令和元年度から県・市町に交付。

長門地域では今後の森林整備加速化に向け、油谷地区約4,000haの航空レーザ測量を実施。森林資源や地形情報等の把握により、中長期の施業計画策定・現地作業等に活かしていくよう支援。



詳細な森林資源情報

### 森林環境譲与税を活用した森林整備を！

林業の成長産業化を推し進めていくための新たな制度である「森林経営管理法」や「森林環境譲与税」を活用した事業で、現在、県内では森林整備の基礎となる林地台帳整備や担い手づくりが進められているところですが、法や財源の本来の趣旨は、「整備の加速化」と考えます。

県内では森林資源が成熟し、木材の追加的需要もある中、木材生産量、再造林率ともに低迷しており、県の森林林業活力強化プロジェクトの計画目標に基づき、今後、私有林の主伐・再造林を加速していくため、市町の「森林整備」が真に進む「経営管理制度の運用」と、「市町への支援体制の在り方」、「譲与税という新しく貴重な財源の使い方」を、私はこれからも提案していきます。